

「市公設市場の誕生」

大正7年11月に第一次世界大戦が終わると、急激に不景気時代へと突入しました。その対策として、政府は主要都市に公設市場を建設することを呼びかけ、政府資金を低利で貸し出す政策を発表しました。この制度を活用して、市は公設市場を建設する原案を提出し、大正8年12月に市会（市議会）が公設市場の建設を承認しました。

その後、大正10年2月1日、山下町の鹿児島専売支局前大通りに米屋、八百屋など33軒が並んだ市公設市場が誕生しました。

営業に先立ち、市会の市場調査委員と事業者が売値について協議し、きめ細かく協定価格を決め、その価格は平均で市価の2割程度安かった

ようです。初日は近くの専売公社の女性従業員が大勢まとめ買いにやっできて、事業者がキリキリ舞いするほどよく売れたそうです。

公設市場が成功裏にスタートしたことで、間もなく天文館に2カ所、武町、易居町にそれぞれ1カ所、民間の同様の市場が誕生したようです。



安さが人気を呼んだ公設市場